

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7551233号
(P7551233)

(45)発行日 令和6年9月17日(2024.9.17)

(24)登録日 令和6年9月6日(2024.9.6)

(51)国際特許分類

F I

A 4 5 D 33/00 (2006.01)

A 4 5 D 33/00 6 1 0 E

A 4 5 D 33/00 6 4 0

A 4 5 D 33/00 6 1 0 A

請求項の数 9 (全18頁)

(21)出願番号	特願2020-34371(P2020-34371)	(73)特許権者	000006909
(22)出願日	令和2年2月28日(2020.2.28)		株式会社吉野工業所
(65)公開番号	特開2021-90712(P2021-90712A)		東京都江東区大島3丁目2番6号
(43)公開日	令和3年6月17日(2021.6.17)	(74)代理人	100147485
審査請求日	令和4年9月5日(2022.9.5)		弁理士 杉村 憲司
(31)優先権主張番号	特願2019-217039(P2019-217039)	(74)代理人	230118913
(32)優先日	令和1年11月29日(2019.11.29)		弁理士 杉村 光嗣
(33)優先権主張国・地域又は機関	日本国(JP)	(74)代理人	100154003
前置審査			弁理士 片岡 憲一郎
		(72)発明者	宮入 圭介
			東京都江東区大島3丁目2番6号 株式
			会社吉野工業所内
		審査官	石井 茂

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 コンパクト容器

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

内容物を収納可能な容器本体と、
前記容器本体にヒンジを介して開閉自在に連結され、閉状態において前記容器本体の開口を覆う蓋体と、
前記容器本体に設けられた係止突起と、前記蓋体に設けられて前記蓋体が閉状態のときに前記係止突起に係合して前記蓋体を閉状態に保持するフック部と、を備えたフック機構と、
前記容器本体と前記蓋体との間に配置され、容器内方へ向けた押込み方向に押込み操作されることで前記フック部の前記係止突起への係合を解除する係合解除部材と、を有するコンパクト容器であって、
前記係合解除部材が、
前記容器本体及び前記蓋体の何れか一方に固定された固定体と、
第1関節により前記固定体に回動自在に連結された第1節体と、
前記第1関節よりも容器外方に配置された第2関節により前記第1節体に回動自在に連結されるとともに、前記第2関節よりも容器内方において前記容器本体及び前記蓋体の何れか他方に前記押込み方向への移動が規制された状態で当接する第2節体と、を有し、
前記固定体、前記第1関節、前記第1節体、前記第2関節及び前記第2節体が、弾性体により一体に形成され、
前記係合解除部材の両側部に、前記固定体、前記第1関節、前記第1節体、前記第2関節

節及び前記第２節体のそれぞれの側部に一体に連なるとともに前記第１関節及び前記第２関節よりも厚みが厚い、幅方向に垂直な断面がＵ字状の復帰補助体が一体に設けられるとともに前記復帰補助体のさらに幅方向外側に、それぞれ前記容器本体に固定された支持ブロック体が一体に連ねて設けられていることを特徴とするコンパクト容器。

【請求項２】

前記固定体が前記容器本体に固定され、前記第２節体が前記蓋体に当接する、請求項１に記載のコンパクト容器。

【請求項３】

前記容器本体の開口端と前記蓋体との間に配置される環状のシール体が、前記係合解除部材と一体に設けられている、請求項１または２に記載のコンパクト容器。

10

【請求項４】

前記係合解除部材が、二色成形により前記容器本体と一体化されている、請求項１～３の何れか１項に記載のコンパクト容器。

【請求項５】

前記固定体が、前記容器本体に設けられた固定孔にアンダーカット係合により固定されている、請求項１～４の何れか１項に記載のコンパクト容器。

【請求項６】

前記固定体に、前記蓋体の閉状態において、前記容器本体及び前記蓋体の何れか他方の、前記係止突起に隣接する部分または前記フック部に隣接する部分に、前記押込み方向に弾性変形した状態で当接する干涉体が一体に設けられている、請求項１～５の何れか１項に記載のコンパクト容器。

20

【請求項７】

前記干涉体が、前記蓋体が閉じられる際、前記フック部が前記係止突起を乗り越えた直後に、前記容器本体及び前記蓋体の何れか他方の、前記係止突起に隣接する部分または前記フック部に隣接する部分に当接するように構成されている、請求項６に記載のコンパクト容器。

【請求項８】

前記固定体に、前記蓋体の閉状態において、前記容器本体の前記係止突起の両側に隣接する部分または前記蓋体の前記フック部の両側に隣接する部分に当接する、一対の前記干涉体が設けられている、請求項６または７に記載のコンパクト容器。

30

【請求項９】

前記係合解除部材が、ポリエチレン、エラストマーまたは合成ゴムにより形成されている、請求項１～８の何れか１項に記載のコンパクト容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、化粧品等を内容物として収納するコンパクト容器に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来、例えばファンデーション等の固形の化粧品等を内容物として収納するコンパクト容器として、内容物を収納可能な容器本体と、容器本体にヒンジを介して開閉自在に連結されて閉状態において容器本体の開口を覆う蓋体と、容器本体に設けられた係止突起と蓋体に設けられて蓋体が閉状態のときに係止突起に係合して蓋体を閉状態に保持するフック部とを備えたフック機構と、容器本体と蓋体との間に設けられて蓋体の開閉方向に垂直な押込み方向に押込み操作されることで保持フックの係止突起への係合を解除する係合解除部材と、を有するものが知られている（例えば、特許文献１参照）。

40

【０００３】

特許文献１に記載のコンパクト容器では、係合解除部材は、容器本体とは別体に形成され、容器本体にスライド移動可能に装着されたフックピースとなっている。押込み操作により係合解除部材が容器内方に向けて押し込まれると、係合解除部材に設けられた押上げ

50

片が容器本体に設けられた傾斜面に沿って摺動し、これにより蓋体が開方向に押し上げられてフック機構が解除される。このように、係合解除部材を押込み方向へ押込み操作するだけの簡単な操作で保持フックの係止突起への係合を解除することができるので、蓋体をストレスなく容易に開くことができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【文献】特開2016-10615号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

10

【0005】

しかしながら、上記従来のコンパクト容器では、係合解除部材を容器本体にスライド移動可能に装着するようにしているので、係合解除部材をスライド移動させるためのスペース及び支持構造が必要となり、これによりコンパクト容器が大型化してしまうという問題点があった。

【0006】

本発明は、このような問題を解決するために開発されたものであり、その目的は、蓋体を容易に開くことができるコンパクト容器をより小型化することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

20

本発明のコンパクト容器は、内容物を収納可能な容器本体と、前記容器本体にヒンジを介して開閉自在に連結され、閉状態において前記容器本体の開口を覆う蓋体と、前記容器本体に設けられた係止突起と、前記蓋体に設けられて前記蓋体が閉状態のときに前記係止突起に係合して前記蓋体を閉状態に保持するフック部と、を備えたフック機構と、前記容器本体と前記蓋体との間に配置され、容器内方へ向けた押込み方向に押込み操作されることで前記フック部の前記係止突起への係合を解除する係合解除部材と、を有するコンパクト容器であって、前記係合解除部材が、前記容器本体及び前記蓋体の何れか一方に固定された固定体と、第1関節により前記固定体に回動自在に連結された第1節体と、前記第1関節よりも容器外方に配置された第2関節により前記第1節体に回動自在に連結されるとともに、前記第2関節よりも容器内方において前記容器本体及び前記蓋体の何れか他方に前記押込み方向への移動が規制された状態で当接する第2節体と、を有し、前記固定体、前記第1関節、前記第1節体、前記第2関節及び前記第2節体が、弾性体により一体に形成され、前記係合解除部材の両側部に、前記固定体、前記第1関節、前記第1節体、前記第2関節及び前記第2節体のそれぞれの側部に一体に連なるとともに前記第1関節及び前記第2関節よりも厚みが厚い、幅方向に垂直な断面がU字状の復帰補助体が一体に設けられるとともに前記復帰補助体のさらに幅方向外側に、それぞれ前記容器本体に固定された支持ブロック体が一体に連ねて設けられていることを特徴とする。

30

【0008】

本発明のコンパクト容器は、上記構成において、前記固定体が前記容器本体に固定され、前記第2節体が前記蓋体に当接するのが好ましい。

40

【0011】

本発明のコンパクト容器は、上記構成において、前記容器本体の開口端と前記蓋体との間に配置される環状のシール体が、前記係合解除部材と一体に設けられているのが好ましい。

【0012】

本発明のコンパクト容器は、上記構成において、前記係合解除部材が、二色成形により前記容器本体と一体化されているのが好ましい。

【0013】

本発明のコンパクト容器は、上記構成において、前記固定体が、前記容器本体に設けられた固定孔にアンダーカット係合により固定されているのが好ましい。

50

【 0 0 1 4 】

本発明のコンパクト容器は、上記構成において、前記固定体に、前記蓋体の閉状態において、前記容器本体及び前記蓋体の何れか他方の、前記係止突起に隣接する部分または前記フック部に隣接する部分に、前記押込み方向に弾性変形した状態で当接する干渉体が一体に設けられているのが好ましい。

【 0 0 1 5 】

本発明のコンパクト容器は、上記構成において、前記干渉体が、前記蓋体が閉じられる際、前記フック部が前記係止突起を乗り越えた直後に、前記容器本体及び前記蓋体の何れか他方の、前記係止突起に隣接する部分または前記フック部に隣接する部分に当接するように構成されているのが好ましい。

10

【 0 0 1 6 】

本発明のコンパクト容器は、上記構成において、前記固定体に、前記蓋体の閉状態において、前記容器本体の前記係止突起の両側に隣接する部分または前記蓋体の前記フック部の両側に隣接する部分に当接する、一対の前記干渉体が設けられているのが好ましい。

【 0 0 1 7 】

本発明のコンパクト容器は、上記構成において、前記係合解除部材が、ポリエチレン、エラストマーまたは合成ゴムにより形成されているのが好ましい。

【発明の効果】

【 0 0 1 8 】

本発明によれば、蓋体を容易に開くことができるコンパクト容器をより小型化することができる。

20

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 9 】

【図 1】本発明の一実施の形態であるコンパクト容器の蓋体を開いた状態の平面図である。

【図 2】図 1 における A - A 線に沿う断面図である。

【図 3】図 1 に示すコンパクト容器の蓋体を閉じた状態の正面図である。

【図 4】図 3 における B - B 線に沿う断面図である。

【図 5】図 1 に示すコンパクト容器の要部を拡大して示す拡大平面図である。

【図 6】図 5 における C - C 線に沿う断面図である。

【図 7】図 5 における D - D 線に沿う断面図である。

30

【図 8】図 5 における E - E 線に沿う断面図である。

【図 9】図 5 における F - F 線に沿う断面図である。

【図 10】係合解除部材を押込み操作した状態のコンパクト容器の図 6 に対応する部分の断面図である。

【図 11】変形例の係合解除部材が設けられたコンパクト容器の図 6 に対応する部分の断面図である。

【図 12】図 11 に示すコンパクト容器の図 7 に対応する部分の断面図である。

【図 13】図 11 に示すコンパクト容器の図 8 に対応する部分の断面図である。

【図 14】係合解除部材に干渉体が設けられた変形例のコンパクト容器の図 6 に対応した部分の断面図である。

40

【図 15】図 14 に示す変形例のコンパクト容器の図 7 に対応する部分の断面図である。

【図 16】図 15 に示す変形例のコンパクト容器の、蓋体を閉じる際、フック部が係止突起に係合し始めたときの断面図である。

【図 17】図 15 に示す変形例のコンパクト容器の、蓋体を閉じる際、フック部が係止突起を乗り越え途中のときの断面図である。

【図 18】図 15 に示す変形例のコンパクト容器の、蓋体を閉じる際、フック部が係止突起を乗り越えた直後の断面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 2 0 】

以下、図面を参照しつつ、本発明の一実施の形態に係るコンパクト容器 1 について詳細

50

に例示説明する。

【 0 0 2 1 】

なお、本明細書においては、「上」は、後述する蓋体 2 0 が閉じた状態において後述する容器本体 1 0 に対して蓋体 2 0 が位置する側であり、「下」はその反対側である。また、「前」は、蓋体 2 0 が閉じた状態において後述するヒンジ 2 1 に対して後述する係合解除部材 4 0 が位置する側であり、「後」はその反対側である。さらに、幅方向は、上下方向及び前後方向に垂直な方向である。

【 0 0 2 2 】

図 1 に示すように、コンパクト容器 1 は、容器本体 1 0 と蓋体 2 0 とを有している。

【 0 0 2 3 】

図 1、図 2 に示すように、容器本体 1 0 は合成樹脂材料により前後方向よりも幅方向の長さが長い矩形皿状に形成されており、それぞれ上側に開口する 2 つの凹所 1 1 a、1 1 b を備えている。容器本体 1 0 は、一方の凹所 1 1 a に、例えば化粧料等を内容物 1 2 として収納することができる。本実施の形態では、内容物 1 2 はファンデーションであり、凹所 1 1 a に着脱自在に配置される中皿 1 3 に充填されて中皿 1 3 とともに凹所 1 1 a に収納されている。他方の凹所 1 1 b には、例えばパフ等の、内容物 1 2 を塗布対象に塗布するための塗布具 1 4 を収納することができる。

【 0 0 2 4 】

凹所 1 1 a に、内容物 1 2 ないし中皿 1 3 への衝撃を吸収するための衝撃吸収部を設けた構成とすることもできる。この場合、衝撃吸収部は、例えばゴムまたはエラストマ等の弾性材料で形成され、中皿 1 3 の外周面及び下側の面を外側から覆う構成とすることができる。

【 0 0 2 5 】

容器本体 1 0 は、凹所 1 1 a、1 1 b を囲う環状の側壁 1 5 と、側壁 1 5 の下端に一体に連なる底壁 1 6 とを有している。側壁 1 5 の上端は容器本体 1 0 の開口端となっている。容器本体 1 0 の開口端には、容器本体 1 0 の開口端と蓋体 2 0 との間に配置されてこれらの間に挟み込まれる環状のシール体 1 7 が設けられている。環状のシール体 1 7 は弾性体（軟材質）で構成されており、蓋体 2 0 が閉じた状態において、容器本体 1 0 の開口端と蓋体 2 0 との間を密封している。これにより、凹所 1 1 a、1 1 b に収納された内容物 1 2 ないし塗布具 1 4 から粉状となった内容物が外部に漏れ出すことを防止することができる。

【 0 0 2 6 】

蓋体 2 0 は、合成樹脂材料により容器本体 1 0 に対応した大きさの矩形の板状に形成されている。蓋体 2 0 の後部側（図 1 において下方側）には連結部 2 0 a が一体に設けられており、蓋体 2 0 は連結部 2 0 a においてヒンジ 2 1 を介して容器本体 1 0 の後側部分に開閉自在に連結されている。蓋体 2 0 の内面（閉じた状態において容器本体 1 0 の内部側に向く面）には矩形の鏡 2 2 が取り付けられている。ヒンジ 2 1 の軸は、容器本体 1 0 の後側部分の一辺に沿って延びており、蓋体 2 0 は当該ヒンジ 2 1 の軸を中心として容器本体 1 0 に対して回動して開閉することができる。蓋体 2 0 の開閉方向は上下方向である。図 3、図 4 に示すように、蓋体 2 0 は、閉状態（閉じた状態）において容器本体 1 0 の開口端を覆って容器本体 1 0 を閉塞する。一方、蓋体 2 0 は、閉じた状態から容器本体 1 0 に対して上方に向けて回動することで、図 1 に示すように、内容物 1 2 を外部に露出させるように容器本体 1 0 を開くことができる。

【 0 0 2 7 】

図 4 に示すように、コンパクト容器 1 は、前側部分に、蓋体 2 0 を閉状態に保持するためのフック機構 3 0 を有している。フック機構 3 0 は、容器本体 1 0 に設けられた係止突起 3 1 と、蓋体 2 0 に設けられて蓋体 2 0 が閉状態のときに係止突起 3 1 に係合して蓋体 2 0 を閉状態に保持するフック部 3 2 とを有している。

【 0 0 2 8 】

係止突起 3 1 は、容器本体 1 0 の側壁 1 5 の前側部分の幅方向中央に、前側に向けて突

10

20

30

40

50

出して設けられている。一方、蓋体 2 0 の前側部分の幅方向の中央部分には、蓋体 2 0 の内面から下方に向けて突出する支持壁 2 3 が一体に設けられており、フック部 3 2 は、支持壁 2 3 から後側に向けて突出して設けられている。フック部 3 2 は、蓋体 2 0 が閉じた状態において、係止突起 3 1 に係脱自在に係合（アンダーカット係合）することができる。蓋体 2 0 の閉状態において、フック部 3 2 が係止突起 3 1 に下側から係合することにより、蓋体 2 0 は閉状態に保持される。一方、フック部 3 2 が係止突起 3 1 に対して上方に移動して互いの係合が解除されると、蓋体 2 0 は開くことが可能な状態とされる。

【 0 0 2 9 】

容器本体 1 0 と蓋体 2 0 との間には、蓋体 2 0 の開閉方向に垂直で後側へ向けた押込み方向に押込み操作されることで、フック部 3 2 の係止突起 3 1 への係合を解除する係合解除部材 4 0 が配置されている。図 1、図 3、図 4 及び図 5 に示すように、係合解除部材 4 0 は、コンパクト容器 1 の前側部分の幅方向中央部に、その一部を外部に露出させて設けられている。

10

【 0 0 3 0 】

本実施の形態では、係合解除部材 4 0 は、固定体 4 1、第 1 関節 4 2、第 1 節体 4 3、第 2 関節 4 4 及び第 2 節体 4 5 が、例えば、ポリエチレン（P E）、エラストマー、合成ゴム等の弾性体（軟材質）により一体に形成された構成となっている。

【 0 0 3 1 】

また、本実施の形態では、係合解除部材 4 0 は、二色成形により容器本体 1 0 と一体化されている。すなわち、係合解除部材 4 0 は、合成樹脂材料の射出成形により形成された容器本体 1 0 をインサートとしたインサート成形により、容器本体 1 0 と一体化されている。

20

【 0 0 3 2 】

固定体 4 1 は容器本体 1 0 の幅方向に延びるブロック状となっており、図 6、図 7 に示すように、その後方側の一部が容器本体 1 0 の側壁 1 5 に設けられた固定孔 1 5 a の内部に配置された状態で容器本体 1 0 に固定されている。本実施の形態では、係合解除部材 4 0 が二色成形により容器本体 1 0 と一体化されることで、固定体 4 1 は容器本体 1 0 に固定されている。固定孔 1 5 a の内面には上方に向けて突出する凸壁 1 5 b が一体に設けられており、この凸壁 1 5 b により固定体 4 1 は固定孔 1 5 a に対して強固に抜け止め保持されている。また、容器本体 1 0 の底壁 1 6 は、前側部分において側壁 1 5 よりも前方に突出しており、底壁 1 6 の当該突出部分の上方を向く面は、上下方向（蓋体 2 0 の開閉方向）に垂直な容器本体側支持面 1 8 となっている。固定体 4 1 の固定孔 1 5 a から突出した前側部分は容器本体側支持面 1 8 の上に配置されている。

30

【 0 0 3 3 】

第 1 節体 4 3 は、容器本体 1 0 の幅方向に延びるブロック状となっており、その下端部の後方を向く部分において第 1 関節 4 2 により固定体 4 1 の前側端部分に一体に連結されている。

【 0 0 3 4 】

第 1 関節 4 2 は、固定体 4 1 と第 1 節体 4 3 との間で容器本体 1 0 の幅方向に沿って延びるとともに固定体 4 1 及び第 1 節体 4 3 よりも厚みが薄くなっており、容易に弾性変形することができる。また、第 1 関節 4 2 よりも上側において固定体 4 1 と第 1 節体 4 3 との間には断面 V 字の溝状の隙間が設けられている。これにより、第 1 節体 4 3 は、固定体 4 1 に対して第 1 関節 4 2 を中心として回動自在となっている。

40

【 0 0 3 5 】

第 2 節体 4 5 は、上端 4 5 a が上下方向に垂直な平面であり、上端 4 5 a の後方に円弧状の湾曲面 4 5 b を備えるとともに下端部に向けて徐々に前後方向の幅が狭くなる断面形状を有し、且つ、容器本体 1 0 の幅方向に延びるブロック状となっている。第 2 節体 4 5 は、その下端部において第 2 関節 4 4 により第 1 節体 4 3 の上端部の前側部分に一体に連結されている。

【 0 0 3 6 】

50

第２関節４４は、第１節体４３と第２節体４５との間で容器本体１０の幅方向に沿って延びるとともに第１節体４３及び第２節体４５よりも厚みが薄くなっており、容易に弾性変形することができる。これにより、第２節体４５は、第１節体４３に対して第２関節４４を中心として回動自在となっている。また、蓋体２０が閉じた状態において、第２関節４４は、第１関節４２よりも容器外方すなわち前方側に配置されている。

【００３７】

図６に示すように、蓋体２０の支持壁２３よりも前方に突出する部分において下側を向く面は、上下方向に垂直な蓋体側支持面２４となっている。第２節体４５の上端４５ａは蓋体側支持面２４に下側から当接している。また、第２節体４５は、湾曲面４５ｂが支持壁２３の前方を向く面に当接することで、蓋体２０に対する後方側への移動が規制されている。このように、第２節体４５は、蓋体２０に対して押込み方向（後側）への移動が規制された状態で蓋体２０に当接している。また、第２節体４５は、湾曲面４５ｂの中心を軸として、蓋体側支持面２４及び支持壁２３に対して摺動しながら蓋体２０に対して回動することができる。蓋体２０が閉じた状態において、当該回動の中心となる湾曲面４５ｂの中心の位置ないし蓋体２０との接触位置（摺動位置）は、第２関節４４よりも容器内方すなわち後方側に配置されている。

10

【００３８】

係合解除部材４０の前方側部分は、第２節体４５から第２関節４４を介して第１節体４３にまで延びるとともに前方側に凸となる湾曲した押圧面４６となっている。

【００３９】

20

上記構成を有する係合解除部材４０は、容器本体１０の容器本体側支持面１８と蓋体２０の蓋体側支持面２４との間でトグル機構を構成している。したがって、図１０に示すように、押込み操作により押圧面４６が容器内方（後方）に向けて押し込まれると、容器本体１０に固定された固定体４１に対して第１節体４３が第１関節４２を中心として回動し、当該回動により第２節体４５が第２関節４４を中心として第１節体４３に対して回動しながら湾曲面４５ｂの中心を軸として蓋体２０に対して回動する。これにより、容器本体側支持面１８と蓋体側支持面２４との間において係合解除部材４０の上下方向寸法が拡大し、係合解除部材４０により蓋体２０が容器本体１０に対して上方に押し上げられる。

【００４０】

係合解除部材４０により蓋体２０が容器本体１０に対して上方に押し上げられると、フック機構３０の係止突起３１とフック部３２との係合が解除され、蓋体２０は開くことができる状態となる。

30

【００４１】

このように、本実施の形態のコンパクト容器１によれば、係合解除部材４０を、容器本体１０に固定された固定体４１と、第１関節４２により固定体４１に回動自在に連結された第１節体４３と、第１関節４２よりも容器外方に配置された第２関節４４により第１節体４３に回動自在に連結されるときともに、第２関節４４よりも容器内方において蓋体２０に押込み方向への移動が規制された状態で当接する第２節体４５と、を有する構成としたので、係合解除部材４０をトグル機構として機能させて、係合解除部材４０を容器内方に向けて押込み操作するだけの簡単な操作で、フック機構３０により閉じた状態に保持されている蓋体２０を容易に開くことができる。また、上記の通り、係合解除部材４０を、トグル機構として機能させてフック機構３０の係合を解除させるようにしたので、係合解除部材４０を容器本体１０にスライド移動可能に装着する必要をなくして、コンパクト容器１を小型化することができる。

40

【００４２】

また、容器本体１０と蓋体２０との間に弾性体で形成された係合解除部材４０が挟み込まれることになるので、蓋体２０の開閉時等において、係合解除部材４０を容器本体１０と蓋体２０との間において緩衝材として機能させ、これにより開閉時等において生じる微細な振動等を係合解除部材４０により吸収して、開閉操作の操作感を円滑でソフトなものとするすることができる。

50

【 0 0 4 3 】

また、本実施の形態のコンパクト容器 1 では、固定体 4 1 を容器本体 1 0 に固定し、第 2 節体 4 5 を蓋体 2 0 に当接させる構成としたので、蓋体 2 0 を開くために係合解除部材 4 0 を押込み操作したときに、係合解除部材 4 0 が容器本体 1 0 に保持され、蓋体 2 0 とともに移動することをなくして、蓋体 2 0 を開く操作をより容易にすることができる。

【 0 0 4 4 】

さらに、本実施の形態では、係合解除部材 4 0 を、固定体 4 1、第 1 関節 4 2、第 1 節体 4 3、第 2 関節 4 4 及び第 2 節体 4 5 が弾性体により一体に形成された構成としたので、係合解除部材 4 0 を安価な構成としてコンパクト容器 1 の製造コストを低減することができる。

10

【 0 0 4 5 】

さらに、本実施の形態では、係合解除部材 4 0 を、二色成形により容器本体 1 0 と一体化するようにしたので、係合解除部材 4 0 をより安価な構成とすることができるとともに係合解除部材 4 0 の容器本体 1 0 への組付け作業等を不要として、コンパクト容器 1 の製造コストをさらに低減することができる。

【 0 0 4 6 】

図 7 に示すように、容器本体 1 0 の開口端と蓋体 2 0 との間に配置されるシール体 1 7 を、係合解除部材 4 0 と一体に設けた構成とすることもできる。本実施の形態では、容器本体 1 0 をインサートとした二色成形（インサート成形）により、係合解除部材 4 0 とシール体 1 7 とを、固定体 4 1 のフック機構 3 0 が設けられる部分の両側に一体に連結されて側壁 1 5 に沿って上方に延びる連結片 4 7 を介して一体に連結した構成としている。このような構成により、部品点数を減らしてコンパクト容器 1 の製造コストをさらに低減することができる。

20

【 0 0 4 7 】

なお、図 9 に示すように、係合解除部材 4 0 よりも幅方向の外側の部分においては、側壁 1 5 は、その前方側を向く面が蓋体 2 0 の前面と一致する厚みに形成されており、その上端にシール体 1 7 が配置されている。

【 0 0 4 8 】

図 5、図 8 に示すように、係合解除部材 4 0 の幅方向の両側部に、それぞれ固定体 4 1、第 1 関節 4 2、第 1 節体 4 3、第 2 関節 4 4 及び第 2 節体 4 5 に一体に連なるとともに第 1 関節 4 2 及び第 2 関節 4 4 よりも剛性が高い復帰補助体 4 8 を一体に設けた構成とすることもできる。本実施の形態では、復帰補助体 4 8 は幅方向に垂直な断面が U 字状となっており、第 2 関節 4 4 及び第 2 節体 4 5 よりも厚みが厚く形成されることで、第 1 関節 4 2 及び第 2 関節 4 4 よりも剛性が高くされている。復帰補助体 4 8 のさらに幅方向外側には、それぞれ容器本体 1 0 に固定された支持ブロック体 4 9 が一体に連なって設けられている。このような構成により、押圧面 4 6 が押込み操作されて係合解除部材 4 0 がトグル機能を生じるように図 1 0 に示す形状変形すると、係合解除部材 4 0 と支持ブロック体 4 9 との間で復帰補助体 4 8 が 3 次元的に弾性変形し、係合解除部材 4 0 に当該弾性力が加えられる。したがって、押込み操作が解除されたときに、係合解除部材 4 0 を、復帰補助体 4 8 から加えられる弾性力により、元の形状に確実に復帰させることができる。

30

40

【 0 0 4 9 】

上記実施の形態においては、コンパクト容器 1 は、係合解除部材 4 0 が二色成形により容器本体 1 0 と一体化された構成となっているが、係合解除部材 4 0 が容器本体 1 0 とは別体に形成された構成とすることもできる。この場合、図 1 1、図 1 2 示す変形例のコンパクト容器 1 のように、固定体 4 1 が容器本体 1 0 に設けられた固定孔 1 9 にアンダーカット係合により固定された構成とすることができる。

【 0 0 5 0 】

より具体的に説明すると、変形例のコンパクト容器 1 では、容器本体 1 0 の側壁 1 5 の前側部分に、側壁 1 5 を貫通する固定孔 1 9 が設けられている。また、固定孔 1 9 の下面は容器本体側支持面 1 8 と同一面となっている。係合解除部材 4 0 は固定体 4 1 が固定孔

50

１９に挿通されることで、容器本体側支持面１８の上に配置された状態で容器本体１０に固定される。固定孔１９の上面には下方に向けて突出する係止爪１９ａが一体に設けられ、固定体４１の上面には上方に向けて突出する被係止爪４１ａが一体に設けられている。固定孔１９に固定体４１が挿通されると、被係止爪４１ａが係止爪１９ａにアンダーカット係合し、固定体４１は固定孔１９に抜け止め保持される。固定体４１の被係止爪４１ａが設けられる部分の下面には溝４１ｂが設けられている。これにより、被係止爪４１ａが係止爪１９ａにアンダーカット係合する際、溝４１ｂが設けられた部分において固定体４１が容易に弾性変形して、被係止爪４１ａが係止爪１９ａを容易に乗り越えられるようになっている。また、固定体４１の上面には、ストッパ片４１ｃが一体に設けられている。ストッパ片４１ｃが側壁１５の前面に当接することで、固定体４１が前後方向に位置決めされている。

10

【００５１】

この変形例において、第１関節４２、第１節体４３、第２関節４４及び第２節体４５の構成は、図６に示すものと同一の形状となっている。したがって、押圧面４６が押込み操作されたときに、係合解除部材４０をトグル機構として機能させて、フック機構３０により閉じた状態に保持されている蓋体２０を容易に開くことができる。

【００５２】

図１３に示すように、この変形例のコンパクト容器１においても、係合解除部材４０の幅方向の両側部に、それぞれ固定体４１、第１関節４２、第１節体４３、第２関節４４及び第２節体４５に一体に連なるとともに第１関節４２及び第２関節４４よりも剛性が高い復帰補助体４８を一体に設けた構成とすることができる。これにより、押込み操作が解除されたときに、係合解除部材４０を復帰補助体４８から加えられる弾性力により、元の形状に確実に復帰させることができる。

20

【００５３】

図１４は、係合解除部材に干渉体が設けられた変形例のコンパクト容器の図６に対応した部分の断面図であり、図１５は、図１４に示す変形例のコンパクト容器の図７に対応する部分の断面図である。また、図１６は、図１５に示す変形例のコンパクト容器の、蓋体を閉じる際、フック部が係止突起に係合し始めたときの断面図であり、図１７は、図１５に示す変形例のコンパクト容器の、蓋体を閉じる際、フック部が係止突起を乗り越え途中のときの断面図であり、図１８は、図１５に示す変形例のコンパクト容器の、蓋体を閉じる際、フック部が係止突起を乗り越えた直後の断面図である。なお、図１４～図１８においては、前述した部材に対応する部材に同一の符号を付してある。

30

【００５４】

図１４に示す変形例のコンパクト容器１では、図１１に示すものと同様に、係合解除部材４０は、容器本体１０とは別体に形成されており、容器本体１０に設けられた固定孔１９に固定体４１が挿通され、被係止爪４１ａが係止爪１９ａにアンダーカット係合するとともにストッパ片４１ｃが側壁１５の前面に当接することで、容器本体１０に固定された構成となっている。

【００５５】

また、図１４に示す変形例のコンパクト容器１においても、容器本体１０の側壁１５には係止突起３１が設けられ、蓋体２０の支持壁２３にはフック部３２が設けられており、蓋体２０が閉じられる際、フック部３２が係止突起３１にアンダーカット係合することで、蓋体２０は閉状態に保持されるようになっている。

40

【００５６】

図１５に示すように、変形例のコンパクト容器１において、係合解除部材４０は、固定体４１、第１関節４２、第１節体４３、第２関節４４及び第２節体４５が、弾性体により一体に形成された構成となっており、固定体４１には、さらに干渉体５０が一体に設けられている。

【００５７】

本変形例では、固定体４１のストッパ片４１ｃを挟んだ幅方向の両側に、それぞれ干渉

50

体 5 0 が設けられている。なお、一对の干渉体 5 0 は、基本的に同一の構成を有しているので、以下では、一方の干渉体 5 0 に基づいて、その構成を説明する。

【 0 0 5 8 】

干渉体 5 0 は、固定体 4 1 の上面から上方に向けて突出する、壁状の形態を有しており、その前方（容器外方）を向く面は干渉面 5 0 a となっている。また、干渉体 5 0 の干渉面 5 0 a の上側部分には、丸み面取りされた湾曲面 5 0 b が設けられている。干渉体 5 0 は、係合解除部材 4 0 の固定体 4 1 とともに弾性体で形成されているので、蓋体 2 0 の開閉方向に垂直で後側へ向けた押込み方向に弾性変形自在である。

【 0 0 5 9 】

干渉体 5 0 は、蓋体 2 0 が閉じられた状態（蓋体 2 0 の閉状態）において、干渉面 5 0 a において、蓋体 2 0 の支持壁 2 3 のフック部 3 2 に隣接する部分の後側を向く面に、押込み方向に弾性変形した状態で当接するように構成されている。より具体的には、蓋体 2 0 が閉状態となり、フック部 3 2 が係止突起 3 1 に係合した状態において、干渉体 5 0 は、干渉面 5 0 a の上端側の部分において、蓋体 2 0 の支持壁 2 3 のフック部 3 2 に隣接する部分の後側を向く面に後ろ側から当接している。また、当該当接状態において、支持壁 2 3 の当該部分によって干渉面 5 0 a の上端側の部分が押込み方向（蓋体 2 0 の開閉方向に垂直で後側へ向けた方向）に押されており、これにより、干渉体 5 0 は、下端側の部分に対して上端側の部分が後方に変位するように弾性変形した状態となっている。なお、弾性変形した状態の干渉体 5 0 と容器本体 1 0 の側壁 1 5 との間には隙間が設けられている。

【 0 0 6 0 】

固定体 4 1 に干渉体 5 0 が設けられていないコンパクト容器 1 では、蓋体 2 0 を閉じる際、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越えた直後に、蓋体 2 0 が急激な速度で閉じられて、不快な衝撃音が発生する虞がある。特に、コンパクト容器 1 を軽量化するために、容器本体 1 0 や蓋体 2 0 の肉厚を薄くした構成では、蓋体 2 0 を閉じたときに生じる衝撃音は、甲高いより不快な音となる。

【 0 0 6 1 】

これに対し、上記変形例のコンパクト容器 1 のように、固定体 4 1 に、蓋体 2 0 の閉状態において、蓋体 2 0 の支持壁 2 3 のフック部 3 2 に隣接する部分の後側を向く面に、押込み方向に弾性変形した状態で当接する干渉体 5 0 を一体に設けた構成とすることで、蓋体 2 0 を閉じたときに生じる衝撃音を低減させるとともに、当該衝撃音を低くこもった質感の高い音とすることができる。

【 0 0 6 2 】

すなわち、上記変形例のコンパクト容器 1 において、開かれている蓋体 2 0 を閉じる際には、図 1 6 に示すように、まず、蓋体 2 0 に設けられたフック部 3 2 が容器本体 1 0 に設けられた係止突起 3 1 に係合し始める。係止突起 3 1 に係合し始めたフック部 3 2 は係止突起 3 1 を乗り越えようとするので、蓋体 2 0 の支持壁 2 3 は前方に向けて弾性変形した状態となる。このとき、干渉体 5 0 は、支持壁 2 3 から離間し、押込み方向に弾性変形することなく、干渉面 5 0 a が前後方向に垂直となるように、固定体 4 1 から真っすぐ上方に延びた状態となっている。

【 0 0 6 3 】

図 1 6 に示す状態から、さらに蓋体 2 0 が閉方向に移動すると、図 1 7 に示すように、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越える途中の状態となる。蓋体 2 0 の支持壁 2 3 は、この状態において、前方に向けて最も大きく弾性変形した状態となる。このとき、干渉体 5 0 は、押込み方向に弾性変形することなく、干渉面 5 0 a が前後方向に垂直となるように、固定体 4 1 から真っすぐ上方に延びた状態のまま、湾曲面 5 0 b ないし干渉面 5 0 a の上端側の一部が、支持壁 2 3 の下端側の一部に隙間を空けて対向した状態となる。

【 0 0 6 4 】

図 1 7 に示す状態から、さらに蓋体 2 0 が閉方向に移動すると、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越え、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越えた直後に、蓋体 2 0 は、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越える際に生じた支持壁 2 3 の弾性変形の復元力によって

、急激な速度で閉じられることになる。

【 0 0 6 5 】

しかし、図 1 7 に示すように、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越える直前において、干渉体 5 0 は、湾曲面 5 0 b ないし干渉面 5 0 a の上端側の一部分が、支持壁 2 3 の下端側の一部分に隙間を開けて対向した状態となっているので、図 1 8 に示すように、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越えた直後、蓋体 2 0 が完全に閉じられる前に、干渉体 5 0 は、干渉面 5 0 a において、支持壁 2 3 のフック部 3 2 に隣接する部分に当接することになる。そして、干渉体 5 0 に当接した支持壁 2 3 は、干渉体 5 0 を押込み方向に弾性変形させながら元の形状に復元することになる。これにより、支持壁 2 3 の復元力によって閉じられる蓋体 2 0 の閉じる速度が減速されることになる。したがって、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越えた後に、蓋体 2 0 の閉じる速度を低減させて、蓋体 2 0 を閉じたときに生じる衝撃音を低減させることができる。また、蓋体 2 0 が閉じたときには、干渉体 5 0 が弾性変形した状態で支持壁 2 3 に当接した状態となるので、蓋体 2 0 が閉じられたときの振動を干渉体 5 0 の弾性変形により減衰することができる。これにより、蓋体 2 0 を閉じたときの衝撃音を、低くこもった質感の高い音とすることができる。

10

【 0 0 6 6 】

本変形例では、干渉体 5 0 の上端側に湾曲面 5 0 b を設けるようにしたので、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越えた直後、蓋体 2 0 が完全に閉じられる前に、支持壁 2 3 のフック部 3 2 に隣接する部分が、湾曲面 5 0 b に当接した後、徐々に干渉面 5 0 a に当接するようにして、蓋体 2 0 を閉じたときに生じる衝撃音を、さらに効果的に低減させることができる。

20

【 0 0 6 7 】

また、本変形例においては、固定体 4 1 のストッパ片 4 1 c を挟んだ幅方向の両側に、それぞれ干渉体 5 0 を設け、フック部 3 2 が係止突起 3 1 を乗り越えた直後、蓋体 2 0 が完全に閉じられる前に、フック部 3 2 の幅方向の両側において支持壁 2 3 が干渉体 5 0 に当接するようにしたので、蓋体 2 0 を閉じたときに生じる衝撃音を、さらに効果的に低減させるとともに、蓋体 2 0 が閉じられたときの振動をより効果的に減衰して、蓋体 2 0 を閉じたときに生じる衝撃音を、より低くこもった質感の高い音とすることができる。

【 0 0 6 8 】

さらに、本変形例においては、係合解除部材 4 0 を、ポリエチレン、エラストマーまたは合成ゴムで形成することにより、蓋体 2 0 を閉じたときに生じる衝撃音を、さらに効果的に低減させるとともに、蓋体 2 0 が閉じられたときの振動をより効果的に減衰して、蓋体 2 0 を閉じたときに生じる衝撃音を、より低くこもった質感の高い音とすることができる。

30

【 0 0 6 9 】

なお、本変形例においては、固定体 4 1 を容器本体 1 0 に固定し、蓋体 2 0 の閉状態において、干渉体 5 0 を押込み方向に弾性変形した状態で蓋体 2 0 の支持壁 2 3 のフック部 3 2 に隣接する部分に当接させる構成としているが、固定体 4 1 を蓋体 2 0 に固定し、干渉体 5 0 を押込み方向に弾性変形した状態で容器本体 1 0 の側壁 1 5 の係止突起 3 1 に隣接する部分に当接させる構成とすることもできる。

40

【 0 0 7 0 】

本発明は前記実施の形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々変更可能であることはいうまでもない。

【 0 0 7 1 】

例えば、前記実施の形態においては、コンパクト容器 1 を、内容物としてファンデーションを収納するものとしたが、これに限らず、内容物として種々のものを収納する用途に用いられるものとすることができる。

【 0 0 7 2 】

また、前記実施の形態では、コンパクト容器 1 を矩形で平たい形状のものとしたが、これに限らず、その形状は種々変更可能である。

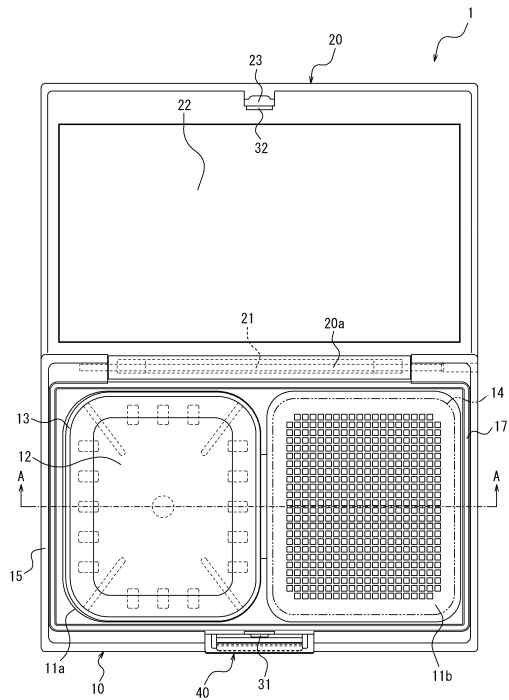
50

【符号の説明】

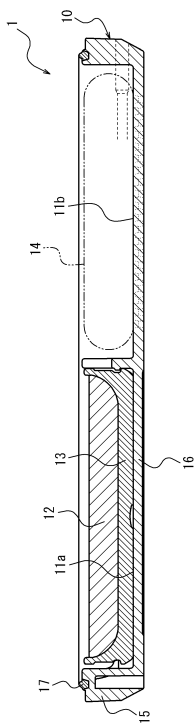
【 0 0 7 3 】

1	コンパクト容器	
1 0	容器本体	
1 1 a	凹所	
1 1 b	凹所	
1 2	内容物	
1 3	中皿	
1 4	塗布具	
1 5	側壁	10
1 5 a	固定孔	
1 5 b	凸壁	
1 6	底壁	
1 7	シール体	
1 8	容器本体側支持面	
1 9	固定孔	
1 9 a	係止爪	
2 0	蓋体	
2 0 a	連結部	
2 1	ヒンジ	20
2 2	鏡	
2 3	支持壁	
2 4	蓋体側支持面	
3 0	フック機構	
3 1	係止突起	
3 2	フック部	
4 0	係合解除部材	
4 1	固定体	
4 1 a	被係止爪	
4 1 b	溝	30
4 1 c	ストッパ片	
4 2	第 1 関節	
4 3	第 1 節体	
4 4	第 2 関節	
4 5	第 2 節体	
4 5 a	上端	
4 5 b	湾曲面	
4 6	押圧面	
4 7	連結片	
4 8	復帰補助体	40
4 9	支持ブロック体	
5 0	干渉体	
5 0 a	干渉面	
5 0 b	湾曲面	

【図面】
【図 1】



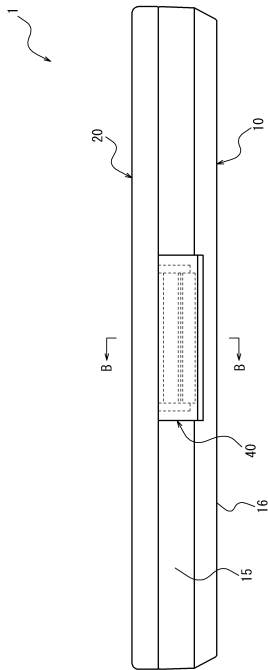
【図 2】



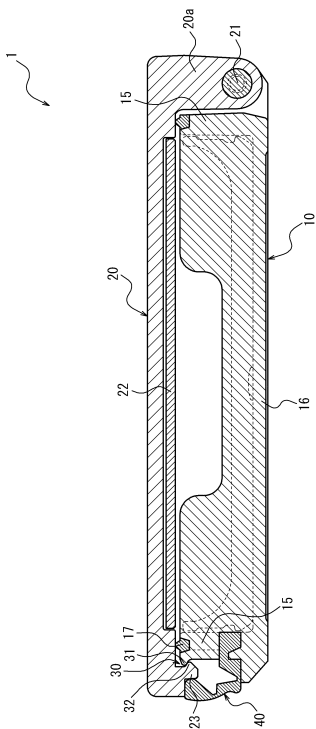
10

20

【図 3】



【図 4】

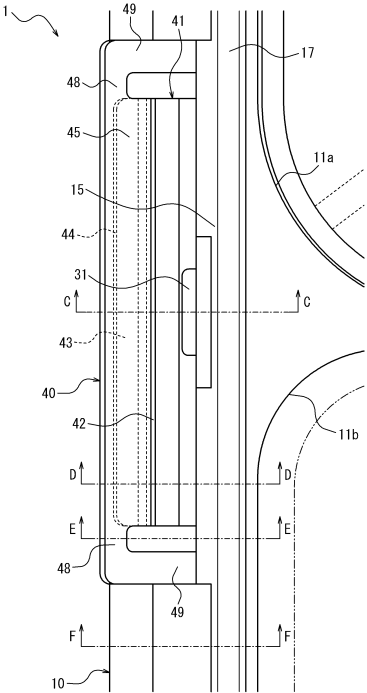


30

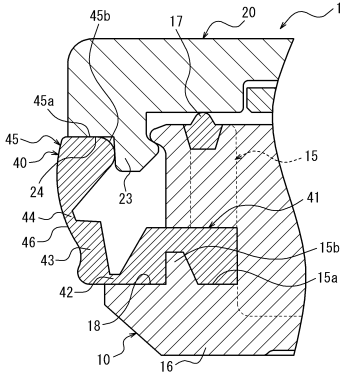
40

50

【図 5】



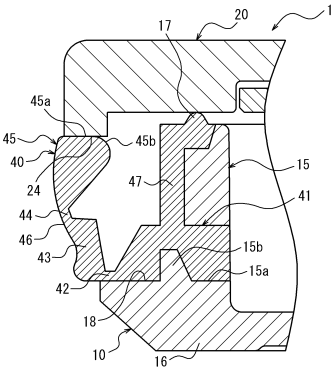
【図 6】



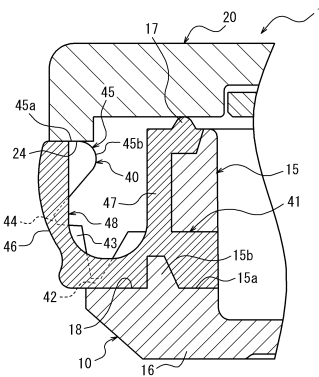
10

20

【図 7】



【図 8】

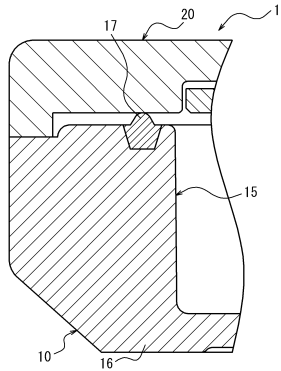


30

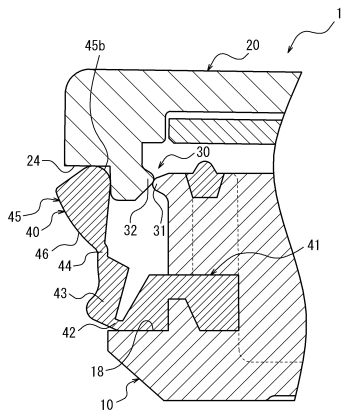
40

50

【図 9】



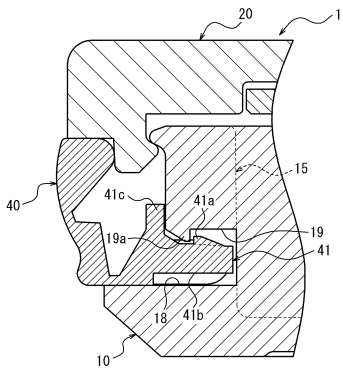
【図 10】



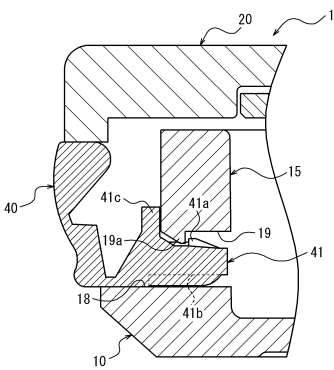
10

20

【図 11】



【図 12】

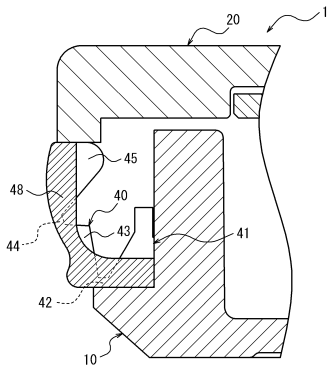


30

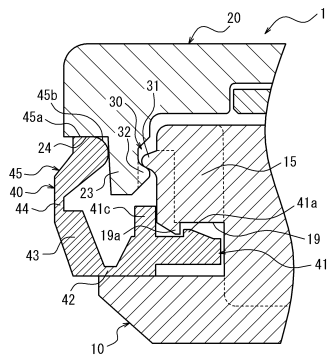
40

50

【図 1 3】



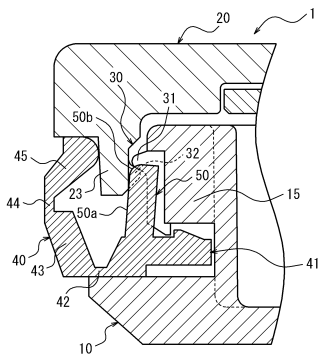
【図 1 4】



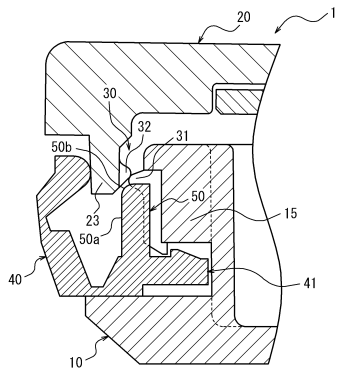
10

20

【図 1 5】



【図 1 6】

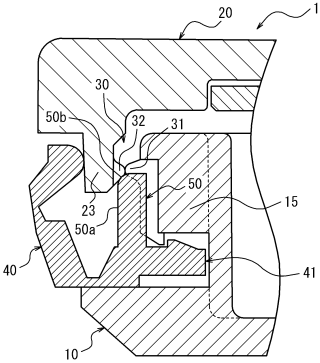


30

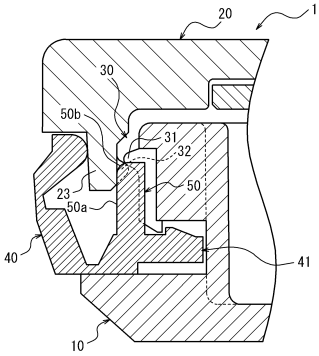
40

50

【図 17】



【図 18】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平 0 1 - 0 0 1 6 0 5 (J P , U)
実開平 0 3 - 1 1 4 1 1 1 (J P , U)
特開 2 0 1 0 - 0 0 1 0 4 6 (J P , A)
特開 2 0 0 8 - 0 5 4 8 3 9 (J P , A)
実開平 0 2 - 1 0 9 5 1 0 (J P , U)
実開昭 5 9 - 1 3 0 6 0 5 (J P , U)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
A 4 5 D 3 3 / 0 0
B 6 5 D 3 5 / 4 4 - 3 5 / 5 4
B 6 5 D 3 9 / 0 0 - 5 5 / 1 6